

2010年9月
2号

八重桜 Bloom Letter

英語のブルーム(bloom)は開花期・花盛り・元気・健康真っ盛り・顔の健康色という意味です。

第十一回 夏祭り

猛暑をはねのけ大盛り上がるの一日でした。

八月三日(火曜日) デイサービス八重桜は朝から満員状態。各種ゲームコーナーや飲食オーダーコーナーなどでくつろいでいただいて、いよいよ恒例の全員参加の抽選会を開始。

二人の代表のジャンケンで、時計回りでのガラガラポン挑戦が始まった。いきなり三等賞が飛び出して、後引き組は渋い顔でしたが、順番が中間あたりを過ぎた頃に待望の一等賞が飛び出しました。(写真一下) そうして、十人ほどを残す最終コーナーで、残り福として最後の一等賞も出ました。



「やまと会」のみなさんに
今年も元気をもらいました。

「やまと会」(会長/早川 武夫)の皆さんの
惚れ惚れするような粋な半被姿には猛暑をはね
のけるクールさが漂っていて、一気に全員参加
の楽しい盆踊りの輪ができました。

「やまと会」の皆様！
ありがとうございました。



デイサービス八重桜 介護主任
渡部 ミカ



レクリエーション委員長
小森 久子

ハワイアンフラサークル

Hawaiian



皆、目はまん丸、
口元ほっこり、
最後はアンコールと大喝采！

七月二十日(火曜日)は南国祭りでした。
ハワイアン フラ サークル(講師・足立幸代さん)とサークルの皆さん、中に女子小学生も混じって、南国情緒たっぷりのダンスを披露してくださいました。打ち寄せる波のようなダンスは懐かしい日本の歌をもハワイアンにしています。
最後は大喝采とアンコール。誰もが温かい包容力に包まれた一日でした。

八月十四日より

ソシオエステティックが始まりました。

今回は、女性七名、男性三名の合計十名の方がソシオエステティックを体験されました。
最初は、とても恥ずかしがられ拒否されていた方も、



手を握りお話をしながら「マッサージだけでも見ませんか？」とお話しすると少し照れながらニッコリ「OKのサインです。マッサージをさせて頂きながら「薄い化粧もして見られませんか？」とお話しするとまた、また、ニッコリ：OKサインでした。お化粧まで終了し、鏡をお見せするととても素適な笑顔を見せていただけました。

男性の方は、足のマッサージをとのことでしたが、お顔のマッサージをお勧めしてみました。すると「そんなのあるの？」と興味を示されたので、是非ということでお顔のマッサージを体験していただきました。最初は、少し緊張気味でしたがマッサージが進むと、すっかりおやすみになられた様子で、リラックステ頂けたようです。マッサージ後、鏡を見ながら肌を触られて「柔らかい」と一言。今後、週一回の頻度で皆様の笑顔を拝見したいと思います。

(文・ソシオエステティシャン 李 清美)

俳句教室発表句

(敬称を略します)

- | | | | |
|-------------|-------|-----------|--------------------------|
| 八重桜 通う道辺で | 蝉の声 | 山本 麗子 | (蝉の声に一瞬何を思い起こされたのでしょうか。) |
| 夏祭り 楽しく踊る | 盆踊り | 寺島 一二三 | (やまと会の皆さんと踊ってくださいね) |
| カキ氷 若き昔を | 思い出す | 加藤 寿美江 | (若い頃カキ氷をどなたと二緒に……) |
| 夏の夜 家族集合 | 夏祭り | 中原 史子 | (夏祭りもいいけど、家族の集合が一番！) |
| すいか割り 童に返り | 大はしやぎ | 畑 隆 | (すいか割りは何かを思い出させますよね！) |
| 夏祭り じつとみつめて | 笛の音 | 八重桜俳句教室一同 | (すべてを吸収する円熟の姿勢！) |





Day garden デイガーデン八重桜



光と風のなかで
緑と大地に触れ合います。

一人ひとりの小さな農園・菜園を接面として、緑とそして大地とに触れ合いながら、新しい「時の流路」をつくり出します。写真左は旧民家を改装したダイルームですが光窓の向こうは前庭で、その池には近くみなどで金魚を放ちます。落ち着いた住居そのものの雰囲気は来所される方々に好評です。私たちはこのダイルーム空間を心のリビングとして大切にして参ります。

介護世界と食事

如何にも暑い夏の真つ只中。昔、日本料理にたずさわっていた頃は、八月の献立は立てにくいものでした。何故なら季節の先取りを常とする日本料理店では、この頃には夏の食材は既に使いつくしてしまっていたからです。かといって、初秋の風情を表わすには外はまだまだうだるような暑さが続く…。そんなことを思い出したのは十五年ぶりに仕事として料理を作ることになったからか。この度、週に一度だけデイガーデンの昼食を担当することになりました。懐石料理のそれからすると簡単な昼食の献立のようですが、摂食・嚥下に困難の伴う方達にも「まず目が喜び、そして舌が喜ぶ」という、私の料理人としての信条を貫くことは決して容易ではないと実感しているところです。まずは初回のメニューはこのようになりました。

馳せ走る

食の匠

のひとりごと

西勝康



御献立 (八月十日)

- 主菜 舌平目のムニエル 宇治ソース掛け
- 副菜 (イ) ロールキャベツカレール煮生クリーム掛け
- 副菜 (ロ) 冷奴 割醤油
- 汁 薬味一糸のり・きざみ葱・忍び生姜
- 飯 冷やしとろろ汁 青のり
- 飯 白ご飯
- 香物 きゅうり浅漬け

嵯峨の竹林について

沢良木和生

古代の京都に住んでいた渡来系の大豪族秦氏(はた)のことを調べていた頃は、一日、秦氏ゆかりの嵯峨の松尾大社にお参りに行きました。

嵐山の下流桂川の西岸に鎮座(ちんざ)し、流れを眼下に見下ろすこの神社は秦氏の総氏神であり、長く王城鎮護の社とされてきました。社殿の後ろの松尾山に磐座があり、もともと地域の農業神として崇められていたのを、秦氏が大山咋神(おおやまくひのかみ)と市杵島姫命(いちじまのひめのみこと)の二柱の神を勧請(かんじよう)して祭神としました。中世以降はお酒の神様としても尊ばれました。

大社をとりまく古代のろまんに思いを馳せつつ参拝を終え、山際の道を南へたどりまします。

松尾月読神社(まつのおつきよみ)、華厳寺(けごんじ)、西芳寺(さいほうじ)、地藏院(じざいん)、浄住寺(じやうじゆじ)など南北朝から応仁の乱前後にかけて焼亡再建を重ねた社寺が、この南嵯峨の起伏する道沿いに並んでいます。中でもこのあたり特有の竹林が随所にあり、径十餘(じゆじゆ)りの大竹の群落が天に向かって高々と茂っています。折から風が起こってざわめくと、不意にからからと乾いた音が空に響くのです。何の音かといぶかりながら道を歩くとまたからからと空高く響くのです。

向こうからきた女性に何の音でしようかと聞くと、ああこれは風に吹かれて無数の竹同士が当たって響き合う音なのです、としばしそのひとも立ち止まって耳をすませ、頬笑んで去っていきましました。吹き過ぎる



カット：栗原もとのり

風と共に遙か上空で竹林の発する澄んだ音は、道を行くほどの胸にも響き合い、やがて、故知れぬ孤愁の想いがひたひたと迫ってくるのを抑えることができませんでした。

